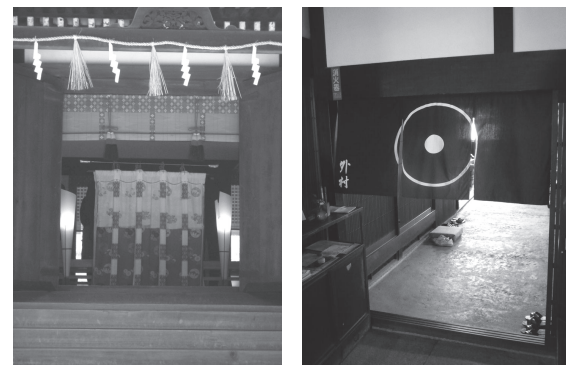




京都市 お糸屋 長履簾 高井潔著「暖簾」から  
金沢市 花屋徳業 高井潔著「暖簾」から  
大阪市 藤料理 水引暖簾、長履簾  
京都市 京料理 太鼓暖簾



左:宇治市 宇治神社 几帳  
右:東近江市 外村宇兵衛邸 襷り暖簾

素材と表現技法を見ると、江戸期に綿の栽培が全国に広がり女性の衣服も華やかになるがそれ以前は庶民の使う布は麻がほとんどであり、現在は綿布が多い。今回の取材でも平織綿布が90%を占めた。一品生産のため長く使っているものは型染め、簡描きが主で最近作られたものは顔料プリントも散見される。デジタルプリントも増える傾向にある。ポリエステル素材は一部であった、やはり天然素材が欲しいのだろうか。

現在見られるデザインについては、やはり商標などの紋か店名を中心に簡単に印すものがほとんどであり、古くから伝わるものの中には風格すら感じられ、緊張感のあるバランスは時代を超えた斬新性を訴えるものも多い。しかし一方で、多様性が言われる現在にあつてデザインの方向性や考え方は意外なほど伝統的な範疇に留まっている。ここに私達もの作りをする立場にとってまだまだアプローチする余地が充分に有るのではないかと。

今回の勉強会に先立ち京都、大阪、東京、奈良の各一部であるが取材に歩いた。家庭で使われる暖簾までには至らなかったが出来るかざり店の人に話を聞いてみた。中にはデザイナーや建築家が積極的に計画した所もあるが、多くは染屋さんに頼んで出来てきました、という返事が多かった。その点で、素材の吟味からデザインまでもっと強いアプローチが出来ないものだろうか。勿論色々な制約があるだろうが、何百年ものあいだ変わらない理由が確かに存在し、それも布の力と言えるのだろうかまだまだ表現の可能性は有ると思う。

この勉強会では最後に、月に兎を探しに行ったアポロ11号が月面に立てた旗の画像を見ていただきながら終わった。強烈なメッセージを放つ、人が最も速くに掲げた布である。暖簾は身近な生活の布であり古くからいる人なものを守ってきた、そしてひと目見て瞬時に沢山の事を伝える布としてこれからもずっと存在するだろう。だとすればいつい見逃しがちな糸や布やその他の素材の事も、メッセージ性の事も、もう一度、見直し確かめながらアプローチすることで新たな布の力が生まれるかもしれない。

(板東 正)

参考書籍 「暖簾」高井潔 ・「日本の暖簾」高井潔 ・「暖簾考」谷峰蔵

## 「のれんの町勝山」調査団報告書



■2009年9月12日

■参加者10名:石井、池端、神沢、北川、鈴木、橋、寺井、奈良平、野々口、坂東

6月の五箇荘見学と講演会「暖簾考」に引き続き、「のれんの町勝山」調査団として、岡山県真庭市勝山を訪れました。朝7時半大阪駅を出発、高速バスにて津山へ、津山から電車で11時に中国勝山駅に到着しました。駅舎の正面では、早速絞りの美しい暖簾が出迎えてくれました。勝山は江戸時代には勝山藩二万三千石の城下町で、出雲街道の要衝であり、中心を流れる旭川は水運の最上流発着地点として古くから栄え、今も自然環境豊かな文化の香り高いところでした。

調査の目的は、勝山は暖簾が町のシンボルになっていることに興味を持ち、暖簾による町おこしの企画が計画され実行されていった経緯、町おこしに暖簾が果たした役割、今後の展望等を調査し、暖簾展や「布の力」の企画へ向けての参考例として調査することになりました。

NPO法人勝山・町並み委員会の理事をされていて、「ひのき草木染め工房」店主の染織作家、加納容子さんにお話を聞きました。彼女は、東京の芸術大学で染織を学び、その後東京で織教室や作家活動をされた後、生家の造り酒屋を継ぐために地元に戻り家業を手伝いつつ作家活動をされています。

最初のきっかけは14年前、自宅の造り酒屋の店頭で自作の暖簾を掲げたところ、隣近所の評判を呼び暖簾制作の依頼が続出したとのことでした。お店で日除けと人目避けのためにブラインドやカーテンを閉めると、店がお休みかと思われ、暖簾であればこのことが解決します。初め16件が集まり加納さんに制作を依頼して町に暖簾がかかると、新聞や雑誌で取り上げられる様になり、県下初の町並み保存地区の指定をされ、暖簾を見ようと観光客が増えたのです。また、朝夕の暖簾の出し入れが人々の会話の機会を生み出し、地域の人々のコミュニケーションが生まれました。加納さん達は暖簾の町を目指した訳ではなく、自分たちの暮らしのアイデアが暖簾をつくることになり、暖簾制作でできた住民間のコミュニケーションの深まりが、町おこしのきっかけとなったのです。布は劣化するので3年ごとに順繰りに新調しています。それにかかる費用は、自分たちの積み立てと行政も補助金政策で支援するなど大変協力的です。

今では100軒近くの人達が意匠を凝らした暖簾を掲げています。一枚として同じものもなく、古くから伝わる紋章のようなデザイン、家業を表すデザイン、モダンで抽象的なデザイン等、ユニークで各々の家のトレードマークになっていました。デザインの質の高さは、私が想像して